

子どもがもてる力を十分に発揮できる教育の充実へ向けて

京都府幼児教育スーパーバイザー 古賀松香
(京都教育大学 准教授)

子どもが人生の初期において、どのように人と出会い、物や出来事と関わるのかが、その後も影響を与える重要なことだとされ、幼児期の教育が注目されています。また、現在、急速に変化する予測不可能な社会の中で、新たな教育の創造が求められています。子ども自らが周囲の環境に関わって考え、主体的に行動し、他者と協同しながら新たな価値を生み出すことを楽しめるように、教育実践を見直すべきときが来ています。幼児教育は多様な施設において実践されていますが、すべての施設において、質の高い幼児教育が実践されることが重要です。また、質の高い幼児教育から、質の高い小学校教育へと接続することが重要であることも研究で明らかにされてきました。

そこで、幼児期の教育と小学校教育に関わる要領・指針において、育みたい3つの資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)が明記されました。それぞれの教育において、この資質・能力や10の姿を手がかりに、今日の子どもの姿をとらえ、明日のよりよい教育実践を創造することが求められます。そのためには、保育者同士や保育者と小学校教員が互いの見方を交流させたり、方法を知り合ったりして、実践のあり方を探究する研修が重要になります。また、その学びを互いのカリキュラムに反映させ、実践し、改善するカリキュラム・マネジメントも重要です。京都府幼児教育センターは、子どものもてる力が十分に発揮できる教育の充実を願って、園内研修や、園・校種を超えた協働的な研修を支援します。子どもに関わる大人の見方や考え方が豊かになることで、子どもの生きる世界が豊かに展開することを期待しています。



京都府幼児教育センターは
保育者・幼児教育施設・市町村を支援します



幼児教育施設への 訪問・助言

幼児教育アドバイザーが公私立の幼稚園・保育所・認定こども園を訪問し、保育参観等を通して、各園のニーズに応じた助言や園内研修での講師業務を行います。

教職員研修

保育者等を対象とした研修を企画し、実施します。また、市町村・各種団体主催の研修会で、幼児教育アドバイザーが講師業務や助言等を行います。

情報提供

ホームページを開設し、保育者向けの研修情報や保護者向けの子育てに関する情報を発信します。

調査研究

小学校と幼児教育施設との協働による幼小接続推進事業を実施し、研究成果の府内への普及を図ります。



発行者
京都府幼児教育センター(教育庁指導部学校教育課内)
〒600-8533 京都市下京区中堂寺命婦町1-10 京都産業大学 むすびわざ館4階
電話: 075-414-5672 FAX: 075-414-5837

きょうとの子ども

～夢・希望・笑顔のあふれる明日を創るために～



幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。

幼児は、保育者との信頼関係に支えられた安定した情緒の下で、様々な人やものとの関わりを通して、多様な体験をし、心身の調和のとれた発達の基礎を築いていきます。

このリーフレットは、こうした幼児期の発達の特徴を踏まえ、幼児教育の質の向上を図る視点や、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続のための方策などを示しています。

保育者が自らの実践を振り返りその改善につなげられるよう、また、幼児教育施設と小学校との合同研修会の資料としてご活用いただけるよう作成しています。

令和2年4月
京都府幼児教育センター

幼児教育の質の向上のために

※質の向上を図る具体的な視点を例示しています。

① 保育者は、幼児の心に寄り添いながら適切な援助をすることで、興味や関心を引き出します。また、保育者が自ら環境に関わる姿を示すことで、幼児のモデルとしての役割も果たします。



① 信頼感のある人的環境

② 友達との関わりの中で、幼児は共に活動する楽しさや喜びを味わい、葛藤の体験は大切な学びとなります。また、幼児同士の遊びにより探究心が芽生え、互いにより刺激を受け合います。



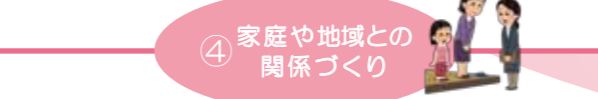
主体性を育む教育・保育

幼児理解からの出発

緊密な連携・協働

専門性の向上

③ 幼児が自分から動植物、遊具や用具、素材等に興味をもつよう教材研究を丁寧に行い、物的環境を工夫することは、保育者の大切な役割です。



④ 家庭や地域との関係づくり



⑤ 省察と対話的な振り返り

⑥ 保育の質を高める研修

④ 家庭や地域の人たちと協働的に子どもを育てることにより、幼児の生活に変化と潤いが生まれます。また、保護者等から意見を聞くことは、園の運営の改善につながります。

⑤ 日々の保育を自分自身でかえりみる（省察）とともに、他の保育者との対話的な振り返りが大切です。多様な視点での幼児の内面理解につながり、明日の保育実践の方向性が見えてきます。

⑥ 園内研修は、保育者相互が学び合う関係となるよう、研修内容や方法を創意工夫します。園外研修では、その学びを園内で共有し、保育の改善に生かすことが大切です。

育ちと学びをつなぐには

※円滑な接続を図る具体的な方策を例示しています。



幼児期の教育

学びの芽生え

人と人をつなぐ

幼児と児童の交流	具 体 例	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃづくりや学校探検等の生活科の合同学習 児童が園で行う絵本の読み聞かせや共同の栽培活動 運動会や学習発表会等の学校行事への参加や避難訓練等の合同行事
保育者・教師の交流・研修	具 体 例	<ul style="list-style-type: none"> 保育・授業参観と事後の協議、日常的な情報交換 合同学習等に関する事前打ち合わせや振り返り 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して行う合同の研修会

カリキュラムをつなぐ

幼児期の全体的な計画からスタートカリキュラムへ	具 体 例	<ul style="list-style-type: none"> 園と小学校とが相互の育てたい子ども像を合同で検討 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、生活科を中心に合科的・関連的な指導を行うスタートカリキュラムを協働して作成 【幼稚園幼児指導要録・保育所児童保育要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録】の内容を共有することによる、子どもの実態に応じたスタートカリキュラムの見直し・修正
-------------------------	-------------	---

小学校教育

自覚的な学び

幼児期



竹に興味をもち、長さを測ったり、枝を並べたり、本数を数えたりしています。また、思ったことや感じたことを伝え合い、友達と一緒に遊びを楽しんでいます。

それぞれの写真に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がどのように見られるか、考えてみましょう。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校での生活や学習にどのようにつながっていくのでしょうか？

小学校



書き手の工夫を考えながら、2つの文章を読み比べ、どちらを選ぶか考えています。互いの思いや考えを伝え合いながら、グループで学習に取り組んでいます。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

（小学校でもこの姿を踏まえた指導を工夫します。）

健康な心と体

【幼稚園生活・保育所の生活・幼保連携型認定こども園における生活】の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくり、守ったりするようになる。

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えたり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、【幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園】内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになる。また、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、今日の遊びや生活で見られた子どもの姿について記録を取ったり、語り合ったりしてみましょう。



思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

言葉による伝え合い

【先生・保育士等・保育教諭等】や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を動かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。